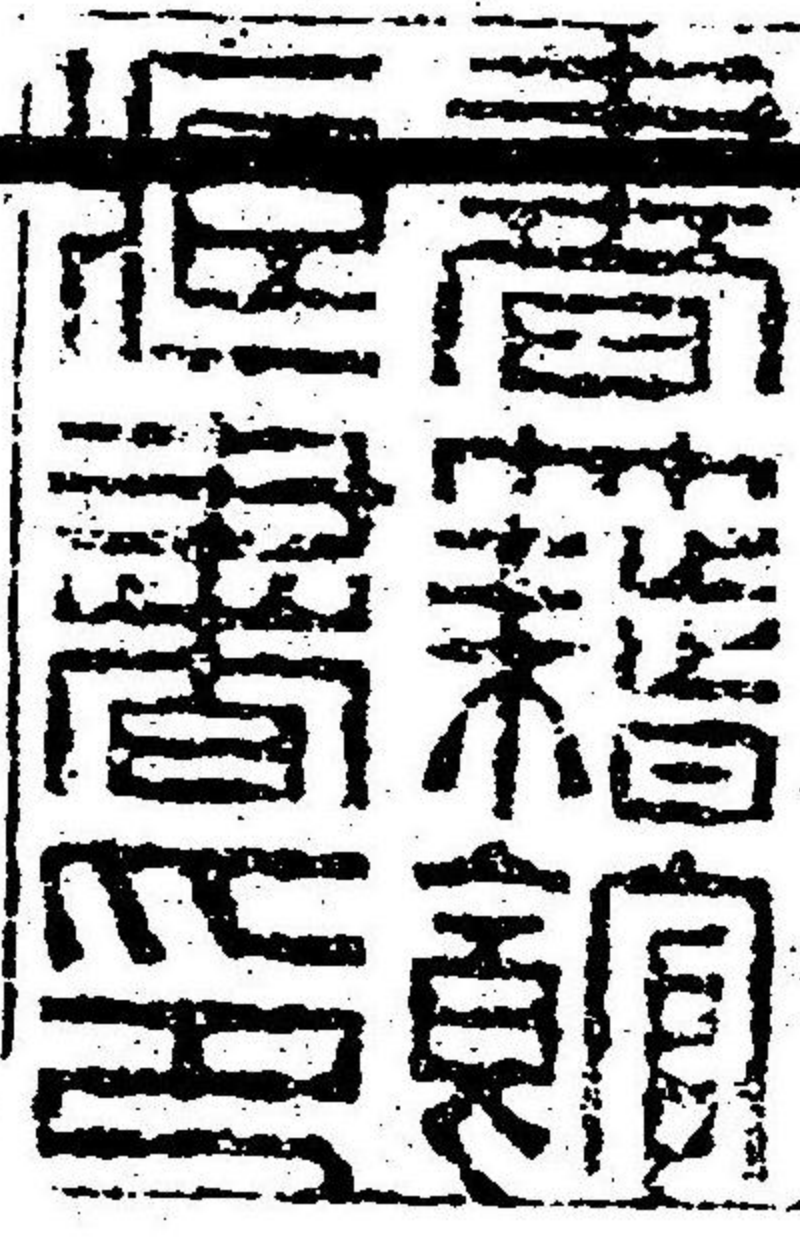


新編會見聞録卷之十一



第十一區

紙の工業の區あり

此區の才一括を紙を製し出さ原質及び製したる紙板目紙の括を二括を五色小彩りたる紙又を壁ふと法るふ用らる紙毛種ふ代用するもの骨牌等其才云括を紙ふく他はたる物なれば紙板目紙の堅別あるもの其才は括を書記紙圖引紙

見聞録 卷之十一

刊行に用うる紙才五種を製本の方法等あるを紙
 を其用甚ど磨きそのある世の中の文明を趣む
 く小従ひに弥廣くあるものありあるは書籍を作
 るにあらひる文書の復用い学校に於て書を
 教へ画を教へ事理を教ふる第一として紙ふよら
 ざる事あり況んや刊行の裨益容易ふある諸書
 の出版年々増加し新聞紙行なるも不及び
 て日々の費やを所莫大ふあるを其製造
 もまた後ひく趨くあり事勿論あり西洋にて
 紙の製造の甚ど盛ふあるを十年以来の事あり

る中らる獨乙一ヶ國の形勢を録して其餘を
 推知せしむ

獨乙の内ふ紙製造の器械を備へたる製造所を

明治元年ふは二百に十二箇所ありて其一年の
 製造量を百六十万三千五百五ト子ル一ト子ル
 を九を裁が十三貫七百目とあれを殆ど
 んど二ふ百九十七万貫ふあたるとあり

今明治六年ふは製造所に百二十三箇所とあり
 其一年の産出高三百六十万五ト子ル
 九百三十とありといふやづる五年の頃ふ製造

所も百八十一箇所増加し産出高も百九十九万

六十万五千五百九十
 其其次才不ひらけゆく
 械を備へたる製造所を
 て欧羅巴諸國も今年千四百八十一箇所
 加ふ一箇所加拿太ふ二箇所合衆國ふ四百六十
 七箇所伯西兒ふ一箇所あえて一年の産出高合
 せく千七百八十一万九千九百九十
 十萬貫 及びふといふ
 紙を世の中ふ甚ぶ利用ある工業ふして其製造
 所も右の如く多く産出もまた右の如く夥しけ

まとも出産を甚ぶ少く
 出産人も多く獨りたまたま隣國を運輸の
 都合も受けきり頗る多く持紙し
 の國々もさるる事甚ぶ少く佛蘭西英
 吉利なども出産人減みいささかのあり

但し佛蘭西ふ製造所四百四箇所あえて一
 年の産出二百九十六万五千九百三
 十三萬 英ふは二百七拾四箇所あえて一年の
 産出三百六十万九千九百八十八萬貫目
 といふ

紙製造の工業は最近の博覽會にも出品人甚ぶ
ずありし中あり

紙を製する原質はわが國もよく専ら楮を用
うまじも西洋もよく古き布の屑を晒して用ら

る事通例あり其のまじりも近年次第に紙の用處
くあり製造も次第に多くなり原質漸く不足

をふし進んで他の物を以てこれを製する事を工
夫しありしを業を用うる事を發明し教人次第に

其製法を改革し今なされしは分良好あり紙
を製し出さ中あり又纖維の多き木を摺り潰し

て紙を製する法はこれより進んでおるは木を山
毛榎柳白楊樅楸一名を楸と云ふものあり

るいは菩提樹樺などをを用うといふ摺り潰す器
械を荒砥を設けく木の堅目も摺るあり木の屑

あり紙を製するものを麻布の纖維を交しゆ木の
屑もこのまじり製するものも厚紙のまじり又工

スパルトといえらるるありわが國の蘭も似たる
ものあり是れを製する所あり多し

これを輸入して紙を製し来りしは年来の事を
見今に亞非利加のアルビル及びトニスあた

る

ようも 欧羅巴 小輸入 なる小至き 檳地利の製
 造 所 あり 竹 麻 桑 の 皮 等 ども 紙 を 製 し 其 見
 本 を 會 場 小 出 品 し たり 又 馬 鈴 薯 の 落 皮 小 紙
 製 し たり 紙 も あり 但 し うれ 簾 紙 あり 其 外 蒲
 紙 小 紙 も 製 する 事 を 得 る 中 元 來 紙 を ペーパ
 ル 英 パーペル 福 パピール 糸 糸 といふ 事 を む っ
 埃 及 小 紙 パピール スといふ 落 草 の 紙 を 以 紙
 を 作 呈 たり する 中 あり 草 を 以 製 する
 事 を 古 く よう あり 事 と 思 へ たり
 支 那 小 紙 竹 小 紙 製 する 事 の 多 小 紙 中 小 紙 在 陽

中 小 紙 出 品 し たり
 支 那 の 出 品 小 道 糸 といふ 事 の あり 白 質 髮 疎 燈
 心 の 如 し 世 小 紙 在 米 紙 といふ 然 とも 米 小
 紙 製 する 事 の 小 非 ぞ 竹 小 紙 の 種 類 あり
 木 の 心 を 取 り 干 瓢 を 作 る 中 切 り 廻 り した
 る 事 の あり 紙 の 如 く 漉 きた る 中 小 紙 在 紙
 小 支 那 人 英 小 紙 繪 を 書 き あり 小 紙 在 花 を 作
 る 小 用 する あり
 紙 を 製 する 原 質 の 逃 げ 不 足 小 あり 心
 づ き 小 紙 在 百年 小 紙 在 前 の 事 小 紙 在 心

其古布の屑も代用するを求めんとすはく
 工夫をある回数試験をある中其内安永正
 年千七百七ふレーゲンスフルグのポストル
 七〇五ルといふ人のあるたる試験大小其切ある
 一といふ人其種々の植物の纖維多きものを
 取り試に始りて其葉をもつて紙を製する事を考
 明したる中其人の説ふを凡そ地上ふせたる所
 の植物一ツとして紙を製するべしと云ふものあり
 といふ事

製紙の記事を博覧會事務官山崎直胤の翻譯あり

製紙原質論を岡宮備方道平の翻譯あり其本の
 纖維を以て紙を製する方法を石井範忠傳習を
 得て歸りて今本兩うれを試験して後これを云
 布せんといふ故に本篇其概略を載す
 物書く紙も其種類あまたあり尋常書籍不用か
 る紙あるいは證書不用する紙も帳本作る紙又
 裁判所よく用ふる紙免状不用する紙もさへ
 あるかゝる紙を透し小文字あるいは繪紙を
 出せると象牙紙とあづかる紙もよく書籍紙あり

あつたを圖を引かたぬ不用うり厚紙画を書か
 不用うり紙膠粘を引きたる紙又を圖を写す
 用うり紙引きの紙書籍の画のあらとらら小隔
 て小入る指紙其外銅版石版の用小光つるも
 の紙幣不造るものあらひを写す不用うりもの
 書籍不用うりもの新聞紙を摺りたるためのも
 の又電信機不用うりもの考其用異あま紙も
 まゝ移くあま移るごとく西洋の紙を潔白雪の如く
 不用うり紙理うまう小艶やうあして異くさきも
 のふととも其犬夫あら事おひらうとらわが國

の美濃紙半紙おどの如きものあまさきを彼
 國の人もやが國の紙を見て布と紙との中間小
 居るあまといひまゝ一閑張の物を見て紙も
 作らる器あまも熱湯を入る事を得るうと
 て驚きあまひを日傘扇雨傘さく紙あま作ると
 て感ト紙布の織物あまよらうとららとさう
 人の目を驚かせしゆいあま
 日本の紙を右の如く良好なきとも質粗くして
 ペンもく文字を書く事能はるまゝ西洋もくを
 漆子傘提燈相油合羽あま製する事あけまを吾

國の紙をさやとぞ買ありむ唯雁皮紙薄英濃な
どを圖を布き写しふらふ最もよろしき中ま
よりの紙かどを金銀細工玉細工かどの物を包
むよらしけきども機械を用おむ先のとふ
て製をきど其價の比例七と紙杯用ひ難しと
いふ

日本の紙あくも水壓器械ふかけたるものを面
羊らふふか支微密よあきて西洋の紙のと思わ
るもむらもふあるある水壓器ふかくる法を用
みだべしあく書く率を得るやどふ至らむとも

品位を増す事らか好らむあるべし

まゝ羊美紙かどを實ふ革を軟むくものふく西
洋人も賞覧らむども其價却て革より貴けきど
又輸出難らむべし

西洋の料理店あくを襦袢布といふものあきて

リン子、木綿等の白布ふく一尺五六寸四方の
ものを巻く食事の啗らむを襦袢掛けき近頃
これを著き紙製のものを採用するもありわが

國の英濃紙半紙あくらきふを常ふ用立つべし
紙幣ふ作る紙を薄くして且堅きものをよそ

其上等あるを亜麻の纖維あるよしありわが
國より方今用うるものこれあり

又ペルチャーマント紙 羊皮 といふ物あり極多し
大かまは證書免状等不用するものあり諸方よ

り出ふありづきも精良あり

書画の用ふありづかそのを包む紙覆は紙種々

の用ふ先つる厚紙紙不燃る厚紙等あり又紙若

き煙草を燃る紙若煙草の紙不燃る紙五色いり

くみ漆ありたる若しき紙等あり

書籍の表紙の心み用うる紙若葉又木の纖維

少く製したるもの多し又其おとてを覆ふるき

ものを革不擬したるりの種々の型を記した

るものありいは表紙うす不用る若流しやう

の若しきかあるものありいは金銀の紙仮り

綴ぢの書の表紙とよづきものをおと紙を分け

陳列せしむ

紙の製造を諸國皆進歩せし其ありやぬを其博

覧會より證するふ是る由獨乙人もりしこと

小澳地利を前ふしりる如く自國の事ありて

其区の出品もまて夥しくありて精良ありて

見聞録 卷之十一

一、こうとふスレーグルニユールの製造所を最
 とも有名あるものみく園堂の中ちふ出所せし
 共社みく製する紙を其種括まゝさくある中
 小紙幣を製する紙のようら一きある園堂ふ紙
 製造の器械をつつ紙丈け長き紙を巻きて出所
 するあり器械みく製する時を原質を考へ湯ふ
 深一たるものを一方より流し掛け中途みく蒸
 氣みく次中ふ乾くやうふ蒸氣かきだ乾くる
 甚く速あるを以て他方ふ至きを轆棒ふ巻附く
 る事を降るやうふあるありされがいの布と長

くとみ作る事を済といふうみ出所一たる事
 紙を獨乙法二里わが陸里四の長さある由出
 品の内ふ廣き紙の上を釣下ふかき鐘を
 掛けたるありられかかくの如く一ても破きざ
 るみく其紙の丈夫あるを示せるあり
 紙製造の器械を機園堂の内み出所あり其ふ
 大ある仕掛けあり又小さき雛形あり幅一尺
 ちのて長さ一丈布とあるも各部全備して
 よく整ひたるものあり
 元来園地利人の出品わらづとも品数多けきと

も取^りてわけマルエンドルフといふ所のレール
 の社^{しゃ}フ^フウメといふ所のスミット氏マイニール
 氏の社^{しゃ}ヘルマ子^こツツといふ所のイ、ベ、ト子^こル氏
 の社^{しゃ}最も盛^{さか}る其内スニット氏マイニール氏の
 社^{しゃ}其^{その}産^{さん}出^{しゅ}するものを英國^{えいこく}ふさし輸出^{しゅつしゅ}する中
 ある書記^{しゆき}不用^{ふよう}する紙^{かみ}出版^{しゅつぱん}不用^{ふよう}する紙^{かみ}を澳地利^{あふりか}
 其^{その}進^{しん}歩^ぽするたる^{たる}彼^かえある其^{その}産^{さん}出^{しゅ}するとも盛^{さか}る
 るをビッテンといふ所のセルルーセ氏^{セルルーセ}スタイル
 ルニール氏の社^{しゃ}あり

紙^{かみ}の製^{せい}造^{ぞう}を澳地利^{あふりか}英吉利^{えいぎり}佛^ふ義^ぎ西^{せい}を以^{もつ}て精^{せい}好^{こう}す

一の國^{くに}とせしむ今^{いま}を獨^{どく}乙^{にち}も其^{その}國^{くに}とふ^ふ等^ららぬを
 其^{その}別^{べつ}製^{せい}の^の色^{いろ}潔^{けつ}白^{はく}にして不^ふ同^{どう}な
 く且^{かつ}つ夫^{ふう}夫^{ふう}ある^{ある}られ原^{げん}質^{しつ}の^のよき^{よき}み^みなる^{なる}

獨^{どく}乙^{にち}の^の品^{ひん}の内^{うち}とら^{とら}とも精^{せい}良^{りやう}ある^{ある}書^{しょ}籍^{じやく}の^の挿^{さつ}
 画^えの^のある^{ある}ところら^ら不^ふ隔^{かく}する^{する}入^いる^る竹^{たけ}葉^え紙^しの^の如^{ごと}き
 その^{その}サ^サイ^イデ^デン^ンパ^パピ^ピール^{ール}といふ^{いふ}又^{また}象^{ぞう}牙^が紙^しとして其^{その}名^な
 甚^しき^きもの^{もの}ある^{ある}を^を造^{ぞう}る^る花^{はな}を^を召^{めい}る^る料^{りょう}ふ^ふはと
 て緑^{りよく}紅^{こう}高^{こう}紅^{こう}等の^の艶^{つや}ある^{ある}艶^{つや}ふ^ふき^きさ^さ海^{うみ}の^のその^{その}あ
 る^{ある}元^{もと}来^{らい}造^{ぞう}る^る花^{はな}を^を五^ご区^くの^のわ^わの^のあ^あま^まとも^{とも}契^{せき}紙^しふ

て造られたる物を紙の傍に添たるもあり
 諸役所及び大なる高社にささぐありいさぐあか
 限あるものたおのまが用紙を別紙に瀝せ文
 字あらひを徽號などをさすのし瀝込他の紙に
 て偽書を作る事を得ざるやうにさる事ありこ
 き紙を瀝く簾の肉よ金そのみくそ紋がうを
 小高く作れば布並さうねふ瀝き掛る故その処
 限ありさうあ瀝くあり宙ふてうらせが其紋がら
 まき通して見ゆかあり其法わわが國藩政のこ
 ろ瀝くみく銀札米札などいふ紙幣を作るに時

質れを作る事紙ハざらんがためふそ社の名又
 た紋などを透しふはきたると同し法あり造精
 粗あるものもあり指乙の出入ふたかする透し入
 の紙も種々うらくしきそのありこの紙を大器
 械みくも製し又わが國のものかかく多業のそ
 めくも製する由あり
 又英吉利紙とく荒毛又を福毛ふく光澤ある包
 紙の出入ありコルナンといふ人を透明紙を出品
 し又紙を透明ふする圓き器械をもち出せり
 其外木を指り洗して製したる紙葉あり製した

る紙をさらあを紙を製する原質ふさるるとして
 く晒し上げたる藁の見本を吐きものあをこれ
 を紙製造所小賣るがためふかくあ一つるも
 の紙を又本を吐き漬して意の如く白き粉をか
 し押固め幅六尺をこの厚さ三四分をうまふ
 て巻物の如くふしたるを吐せらるるのあをこれ
 まを紙を製する系質あを

この白き粉の押固めたるものを升籠右持
 ち取り現今試験最中あを
 英吉利を製造所の数も多くつぎまも廣大ふ

て甚く進歩もあふよるまども今般うふ出
 品したるをダルトブルドのサウンデルスの製
 造所とエジンボルのコワンの製造所のなか
 らコワンの氏の出品をその書く紙の甚く劣りさ
 をとめ種々あを原質を綿古布ニスバルト草
 を用ふる中其光澤を膠を引きて吐せられ不用
 なる水牛の皮もよく不陳列せし膠を引て乾あ
 ぶ場所を英の陸法一里の四分の一
 八歩所ハ抄十九
 万五千三百坪余
 ありといふ紙製造の
 寫真出してた

サウシテルスの社の出品を或いは大器械として
 製したるもの或いは工業として製したるものに
 て為務多形紙幣など不用する紙に其透し文字
 鮮の小して突しく其外物書く紙繪を書く紙金
 計帳不用する紙などありと墨吸紙といふもの
 のを出せしむれを墨汁少く文字を書きしむる
 乾らざるを要む時を互ひに墨移して汚むべし
 らざるふむきをわらうる時を紙墨吸紙と押し
 濁したる墨を吸ひせ速く乾らざるた然らざる
 とのあるを

その外木の纖維を化学の業少く粉末ふりたるもの
 の又られ少く製したる紙など出せしむる
 佛系西もまた製造所を多けしむるも出品を甚ぶ
 少し但し有名なる製造所を頗る出品したる其
 出品を透し入るの紙のうちの外に條うきもの
 紙幣の紙石版の紙其外種々繪を書く紙に其色
 の潔白ある少く甚ぶ名譽を得たるを寫真不用し
 る紙を数人これを出果をいづきも精好なる佛
 兼西の紙製造の類あり其製造所の紙繪の額を
 掛けたる二階造りふして甚ぶ長く蒸氣の仕掛

を用お華掛け車あましくあつて亞米利加お名
 多きナイヤガラの際のゆく其間小男女あましく
 の職工どもそましくの業をいとあむさむを写せ
 こころを見まきむ製造所小至る心あせそ
 魯西亞お土地廣大ふして其兵強しといへども
 百工の業を欧羅巴諸國とて遙小かり國あり
 と西洋人も常小いひいお此夜の博覽會お出
 たり所を見まきだ行くの工業諸國小若らぬもの
 多しられ皆其國民一方あつて奮發して諸國小
 負じと覺つると政府もらつて小力を用ひて人

氏を引立くたらしふよるあつてさう紙
 の製造所よりお出たりたる物多く其精好のさま
 を見まき其國近年ことの外映製造小進歩したる
 を知る小足まきと稱乙人の評論せらあまき
 魯西亞の工業の甚ぶ進きたるを其會の出展小
 て知るま欧羅巴人もあむむむむのまあまよ
 維納の新聞紙も載せたり但しあむむむむむに
 美小あむむむあむむむ其精良を譽めたる詞あり
 固小い小日本の工業の内陶器漆器銅器紙
 織物等外稱譽せられたる物もあましくあま

どもいづれも始末くうれを品評するもの
 して幾年間ふられ乍どの進歩あるとて嘆
 せしるふあうが慶應の會も持ち出ぬ物を
 此夜を持ち渡したるの多けさだたとし前會
 小比較して進歩あるといふ者あるとも決
 て至當の福とし難し魯西亞の工業かくの如
 く志をく稱譽を受けらるが如くあう私を真
 小國力の進歩といふべしを嗚呼吾の國の
 工人ともかくる條をよみく猶奮発の心をか
 こさむらりづまの付の己を富より國を富

まさる事を得べき願はくは百工殊其業を精
 練し日々小其歩を進めん事を志しこまのき
 事おも注意して故格小泥を新奇小流を丹
 誠年をつめて改良巴諸國の人小好ましとま
 でいてきんと心掛けたき事小く登又わの國
 の本綿の屑をいまぐ内地ふく用うる事を知
 らざむを近年外國へ輸出せらる中ありこれま
 と製法を覚へて内地ふく紙小製するやう小
 せまはしき事あると

魯西亞の政府の紙製造所を其都ペートルスブ

ルグ小あり其出品を為器の形等小用うる紙の
 あるひは其製ありひは器械製あるあり皆透し
 紋子際よく整く小堪たり其外魯西亞の出品人
 々多くあり其内木の粉末を系質と云る製造所
 もまゝ少ありぐらの中キーウといふ所のセベラ
 一氏の社を其國の泥地よせせざるカレキスとい
 小草の一種みく製したる紙を出せし草をわ
 ぶ國の菅の類みく容易く晒さるる物あり
 其外和柔瑞西以右利是班葡萄牙皆支く出品あ
 り亞米利加の合衆國を厚紙少く出せらるる

瑞典誌曰く紙の出品あり唯器械みくを製造し
 たる木の粉末あり其木をあまり出せし其國
 々樹木多くして且水の便利よく運輸も水車も
 自在なきが器械よく木の粉末を製し出さるる
 との外夥しといふ化学よく木の纖維を解剖を
 る業も其國のものあり獨り進歩もあり
 あり連馬も木の粉末の見本のより紙を出品
 せし白耳村も紙小光澤をばくる亞鉛の板を出
 品したるのあり
 支那の紙もあまり出品せし但しいつとも日本

糸く足馴きたるものかまが別ふあるさば唯朝
 鮮の物の内ふ合用なる紙及び合用など
 ある兩ふあてて試いたるふあはれも至極大
 夫ふして吾國の物より上ふるもの多し
 又輿地利の郭ふは元質より劣る處にて紙と
 あるまでの形状を示せしは出島あをられを箱を
 歳局ふも仕切りて其才一局ふは木綿の本布の
 切り屑のみまき減つて其甚劣の局ふを春きたるふ
 如く又紙屑を水に浸して絞るたるもの如く
 ふあはたるを示し又其次の局ふは色も白くあ

星姿を綿の如くふあはたるを一つは如く
 五変して糸の筒ふを製し上りたる紙を入きた
 又輿地利の壁張り紙をまきとらるる糸子
 如きもの琥珀の如きもの錦大和錦等の如きも
 のあはたるいは大埋石の如き色も深めたりた
 るあるいは木目を画きて木の如く見ゆるやう
 ふしたるもあはれ木目の画甚ぶよろしき故ふ真
 の木の如く又やが國の村園絞るふ似たるもあ
 星深華小賽りせたるもあは

佛蘭西人の出品にたる壁紙や紙にありひた縹
 子等の如きものありひた錦ありひた大和錦織
 紋の如きもの等又を落縮ふをありたる
 が如きもの或ひは襷條卷の五ふを摸したるも
 の紙を摸したるもの為縮ふ縫摸搦したるが如
 きもの等ありひたつきも画板彩り等精好ふ
 て傍らあるれふ紙が工業とあるにたるをよ
 ても猶布あるべしとてふものあり金か
 ら革あるふ擬したる類もよき見る人其紙ある
 を云ふ和蘭人をまよふ本衣を摸したる紙をせ

其幅各二尺むらう長さ三尺あまう厚さ四分不
 どの板ふらうてありつゝぬいづきも其木を合
 の真小逼るをもつゝ初に紙あるべしと思は
 ざりきあり目その内一枚かゝつゝ女刺げたる
 所あるを見出し夫よりたゞき試みてをいめて
 紙ある事を知りたる其内寄本細工の板のやう
 小深ありたるあるも好あり
 亞米利加合衆國の部ふわがら其の出品を見
 ざりし其國の事務官より山崎直胤のりて
 賜りたる羅紗紙の見本をよき其工業の

毛織物たるさぬも想ひ見らるるれを羅紗を換
 一たる紙より青赤紺縹をさるるある煤竹霜降り
 其外小いぶるまでまこととの羅紗と次も變る
 ざうれを羅紗を織り上げてまをとおしたる極
 めく細のき羊毛の粉末を毛つけおしや貯へ重
 き紙小塗して作るものといふ紙張小箱箱の
 内を張るありひを小きき器械を納め箱の内
 を張るたるあるは惣分内地みも舶来するもの
 あり
 其外紙返小厲するもの大なりたるの子帳も

扱あるひを商人の店不用うら勘定帳あるひを
 封筒紙札紙などあり勘定帳を蓋しく襷糸を
 引き又赤糸三四條いきたるものみく左りの
 方の物の名番号函のありき田あり右の
 赤糸糸の内小其代價をあらし代價を寄せたる
 高下ありあるを申すありたるものあるか
 ら帳を破り去り綴り替へあるは好を防く
 いたる糸綴り終りたる時錐器械あり孔を穿ち
 太き糸を通し其結び目糸緒を張るられ小政府
 の封印をあら事あるをされが私ふられを綴り替へ

事のあし難し又三方の小口を尋常の書冊の如
 く巻流し申すの紋がふ深めくあまが一膳も
 破り去る事を得ざし何事の議論のおうをた
 る時を以て帳を持ち出て裁判を受らるゆその時
 も一紙封印を去りたるの又を一定の紙数不足
 する時を裁判所あしこれを取上げらる事ありと
 いふ系を引くを甚だ容易きわがあし其法及び
 綴る方法等と別し執知あるを以てしつゝふ志ら
 ざる事
 附け襟を附け袖にさす五匹のらのあまがとも紙

しく作らる物々此区ふ出石したるあま五匹
 小出せらるを用を注意し一紙区ふ出せらるハ質を
 見はらるを主とし襟袖にた多くを藁あし製し
 たる紙を用う藁紙を古布の屑あし製したるもの
 小比は是を弱けしむも價極めく廉あるを却て
 利あるものあまされが此業日を逃しつゝひけ
 襟袖にあまがれあし作らる至るられを瀧き揚
 げて後登道具ふ掛け布目縫目を押し出さ其
 押し形のようしきと紙の色の潔白あると麩の
 通宜あるしあしあまが織物製のわの火耐斗

しく光澤を生じたるものより少くもかりく好や
 うよ見えたるを其外黄紙を厚くまきて書籍の表
 紙を作る用ふ充てあるいは若くは作るかゝる物
 の葉の自然の色のまゝふまきども甚だ上品か
 り
 此れ紙を其製全く別ありれ極めく細やうふ
 して色白く光沢あるを白漆を塗るたるもの
 如く勿論價の言下ふまきて善きありき程あり
 まるもらうふ出ふりたるを概の工等の物あり
 封筒書翰紙もまゝ程よくしてつと評論する事

を得む其内草花人物蒸氣紙あらひるアベセ文
 字あどを或いは藍色あらひる五色の総色あど
 あり紙の隅に印したるものあり西洋人を各自
 身の用紙封筒に己の徽号又は姓名の印字あ
 どを右の如く印して用うるものあり存ふい
 小草花文字あど印したるをうれふ儼へる物あ
 るべし
 燠地利の都維納ルホチフといくる寺あり
 燠ニツありびて半空ル筆へ頗る大なる建物あ
 り燠地利人ツナントニケールといふものあり

寺の雛形を二尺四方の足小作らるるをせしむること
 紙細工にして標干瓦入口窓塔の形も
 の等に互らざるを具しざるものか細く見ま
 ば其精妙あるを覺ふものありむ寸法一
 寸真の寺と比例して作るものと見え其恰
 好寸分違はざる其寺の傍らに持ち移し比較を
 ともこの所を違へるといふところあるまどと
 思へる唯玩弄物のやうあるものも親る人より小
 足止めざるものありき社寺のありきを
 元来寺二十三区小属するものありきを

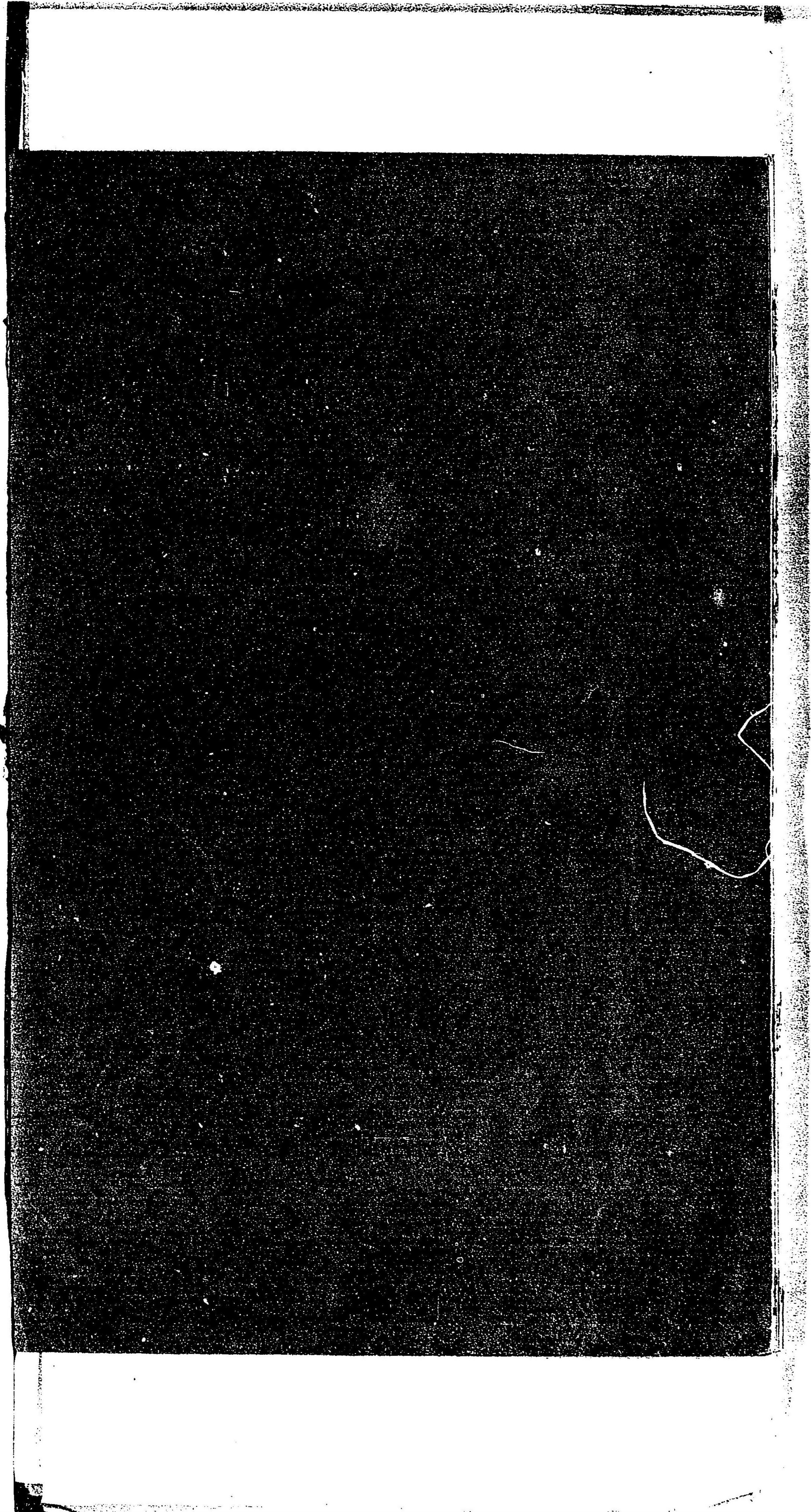
紙の細工を主意にして出ふたもあまを愛ふ
 たつて私たるものありきを罪人牢屋の内にお
 きて作らるるものありきあり
 右の外鏡筆我筆石筆筆掛掛筆の括の如
 き文房具も此区小属して種々の出品甚だ夥
 といへども一々これを見せしむ
 映込みく才一等の療費を得たるもの十五人
 おして主内獨乙の普魯社の紙製造所ホウスが
 ブルーデル氏、シール、左リキス氏、シール
 ル、ハインリッフェ、アウグスト氏の三人各一ツバハ

リヤのハーベル氏の石筆製造ヘンレーレヲ氏
 のメタールパピール製造各一ツを以て獨乙五
 箇
 壤地利よくるスレーグルミールの紙製造所ハ
 ウシートルの紙製造所ボエミヤのハルトミ
 トの石筆製造所各一ツを以て三ツ
 佛蘭西よくる其都パリスの紙製造會社ブラン
 ント、フレール氏及クレール氏の紙製造所カ
 ンソソ氏モントゴルスール氏の紙製造所バリ
 ン氏の毛種紙製造所各一ツを以て四ツ

英吉利をコワン、アレキサンドルの紙製造所共
 褒賞を得たるを
 わが國坎区あく 進歩の賞牌を得たるを岐
 阜紙の美濃紙、敦賀紙の奉書、東京の紙、細工をの
 各一ツ
 有切の賞牌を得たるを、のを滋賀紙の雁皮紙、茨
 城紙の書籍用の紙、神山紙の賞書紙、宮城紙の紙
 及び紙布、小用うる紙、奈良紙の吉野紙、沓巻紙の
 元結、豊岡紙の鼈甲紙、度會紙の煙草入り紙、奈良
 の吉梅園の書文、脚堂、壽栄堂の筆、及び繪筆、小

て其教十有^ハ又表章^ハを得^ルるを^ハの^ハ廣島^ノ紙、京都府の^ハき紙、名^ハ茶^ノ紙の^ハ書^ハある^ハい^ハ茶^ノ紙、^カ傘^ノ紙、山^ノ紙、山梨^ノ紙の^ハ賞^ハ書^ハ用^ルる^ハ紙、^カ敷^ノ紙、加^ハ後^ノ平^ノ右^ノ衛^ノ門^ノの^ハ書^ハ紙^ハあ^リく^ハ其^ノ教^ハ六^ツあ^リ。

博覽會見聞録卷之十一終



博覽會見聞錄

十一

特39

322

